

教育委員会だより

「自主」と「共生」～自己肯定感

令和元年 12 月 18 日号 多治見市教育委員会 教育総務課

プログラミング教育モデル校授業公開



11 月 29 日(金)、北栄小学校で、令和元年度のプログラミング教育モデル校授業が公開されました。令和 2 年度から小学校で新しい学習指導要領が全面实施となり、各学校でプログラミング教育を行うこととなります。

多治見市では、教育委員会と情報課が連携して指導計画を立案し、来年度からの導入に備えています。昨年度は、プログラミング教育の意義や課題を発見することに重点を置き、多治見市立池田小学校でモデル校授業を実施しました。本年度は、市内の小学校に勤務する教員がプログラミング教育のイメージを深めること、指導計画を理解して円滑に実施できるようにすることを目的に、モデル校授業を実施しました。

この日は 5 年生の総合的な学習の時間で、多治見市長、他市の教育委員会の方等多くの参観者がありました。児童は「mBot」というプログラミングロボットを用い、ロボットに自分の意図どおりの動きをさせるために試行錯誤しました。こうした活動を通して、プログラミング的思考を養うことを願いました。「これじゃだめだ。次はこうしてみよう」等と話し合いながら、プログラムと実行を繰り返し、完成度を高めていく姿が印象的でした。

- ・児童がプログラミング的思考を育むために、課題解決を図っていく学習活動を大切にしながら、仲間との協働的な活動、試行錯誤させる学習過程が位置付けられているところがよかったです。(市内小学校勤務の教職員)
- ・フローチャートで動きを決めてから、それをロボットにさせるためのプログラムをつくるのがプログラミング的思考だと思いました。そして、「プログラムをつくる」→「動かす」→「修正する」→「繰り返す」という一連の活動の中で、思考力が高まることも分かりました。(市内小学校勤務の教職員)

わがまち多治見大好き講座⑦「多治見ふるさとしごと塾」

11 月 30 日(土)、本年度 7 回目の「わがまち多治見大好き講座」、『多治見ふるさとしごと塾』を行いました。多治見ロータリークラブの全面的なご協力をいただき、159 名の小中学生が、本市各界の第一線で活躍しておられる方々から、講話や体験を通して、仕事や郷土への思いを伺い、ふるさと多治見への愛



着を深めることができました。30 名の中学生ボランティア、来賓や保護者の方々を合わせ、370 名の方が、会場の東信学びの丘エールに集いました。

第 1 部は、多治見市出身のシンガーソングライター佐藤梓さんのミニコンサート、第 2 部は、パラ

アスリートの谷真海さん、山本篤さんによる講演を行いました。パラアスリートとして自らの限界に挑戦し続けてこられたお二人からは、『「あきらめない」が未来を作る』と題して、これまでの道のりやあきらめそうになったこと、あきらめなかったことなどをお聞きしました。最後の第 3 部は、多治見ロータリークラブの方々を講師に参加者の小中学生が「しごと体験」をしました。陶芸家、建築士、弁護士、ケーキ職人など 16 の職業の中からそれぞれが希望する 1 職種を体験しました。講演会講師の谷さん、山本さんには、「義肢製造業」体験の先生にもなっていただきました。子ども達は、お二人を取り囲むようにしてお話を聞き、一緒に大縄跳びをするなど、貴重な体験をしました。

保護者の方からは「自分の住む多治見で活躍する人たちが多くいることに感動したようでした。」「多治見や多治見を支える人たち、その仕事を好きになれた良い機会でした。」との感想をいただきました。今回も、子ども達は、多治見の第一線で活躍しておられる方々から直に学ぶことができ、それぞれの将来につながる貴重な時間をもつことができました。いつも以上に大勢の参加がありましたが、中学生ボランティアの働きがあり無事講座を終えることができました。

「多治見ふるさとしごと塾」は今年度で 5 回目となりました。内容も年々充実しています。1 年間で最大規模の講座を成功裏に終えることができました。多治見ロータリークラブの方々をはじめ、お世話になりました全ての皆様に、厚くお礼申し上げます。

< 1 月の行事から >

- 6 日(月)学校開庁日
- 7 日(火)連合生徒会
- 8 日(水)冬季休業後最初の登校日
- 14 日(火)教育実践論文審査会
- 25 日(土)わがまち多治見大好き講座⑧
「科学に挑戦」(80 名)

< 2 月の行事から >

- 1 日(土)第 55 回土と版画展(～3 日(月))
パラー文化ホール
- 4 日(火)社会科副読本編集委員会
- 5 日(水)校長会
- 13 日(木)特支コティネータ研④
- 18 日(火)研究報告会